

## 今週の為替相場見通し(2020年7月20日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		106.67 ~ 107.42	107.03	106.50 ~ 108.50
ユーロ	(ドル)		1.1294 ~ 1.1452	1.1428	1.1340 ~ 1.1520
(1ユーロ=)	(円)		120.88 ~ 122.56	122.27	121.50 ~ 123.00
英ポンド	(ドル)		1.2480 ~ 1.2666	1.2567	1.2450 ~ 1.2650
(1英ポンド=)	(円)	*	133.98 ~ 135.49	134.51	133.50 ~ 135.50
豪ドル	(ドル)		0.6922 ~ 0.7038	0.6996	0.6600 ~ 0.7100
(1豪ドル=)	(円)	*	74.19 ~ 75.28	74.88	73.00 ~ 76.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

### 1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 小林 元子

(1) 今週の予想レンジ: 106.50 ~ 108.50 円

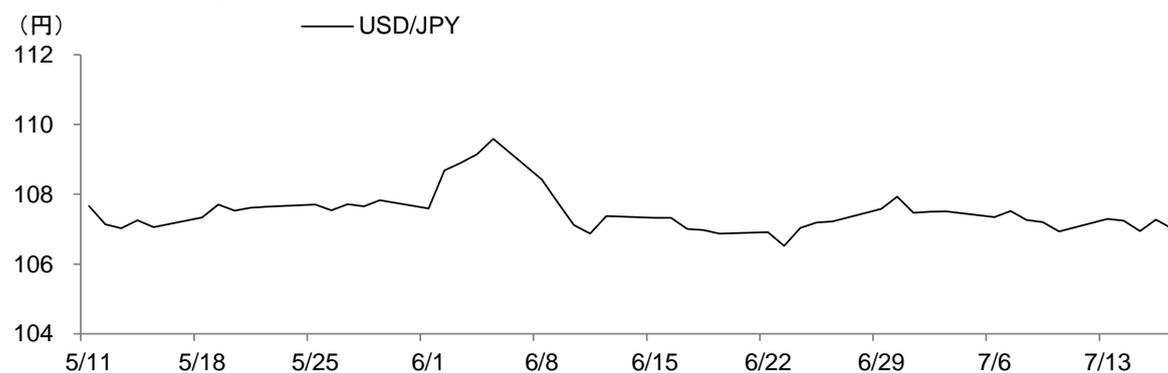
(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は小幅に上昇する展開。週初13日、106円台後半でオープンしたドル/円は、仲値にかけてじりじりと下落。その後、アジア株が堅調に推移したことで、円が売られる展開となり107円を上抜けた。14日は、南シナ海の海洋権益についての見解を巡り米中関係悪化が懸念されたが、米大手銀行の決算結果が市場の予想を上回ったことが好感され、ドル/円は107円台前半を底堅く推移し、一時週高値の107.42円まで上昇した。15日は、前半は小幅な値動き。日銀金融政策会合が開催されたが、事前予想の範囲であったことから大きな材料とはならなかった。その後は米国にて新型コロナウイルス向けのワクチン開発に関する報道や7月NY連銀製造業景況指数の結果を受けて、リスクオンのドル売りが進み107円を割り込んで、一時週安値の106.67円をつけた。16日、前半は日経平均株価が軟調に推移したことを受けて上値の重い展開。ECB政策理事会後もドル/円は小幅な値動きとなったが、翌日に臨時EU首脳会議を控える中、ドル買いが進み、一時週高値付近まで上昇した。17日は、新型コロナウイルスの感染者数が過去最多水準となったとの報道を受けて、市場心理が悪化し、アジア時間では株の下落を受けてリスク回避の雰囲気からドル円もじりじりと下落。しかし、106円台ではドル買い需要も相応にあるとの市場心理から107円台に値を戻し、107.03円で越週した。

今週のドル/円相場は引き続き上値が重い展開を予想する。新型コロナウイルスをめぐり、ワクチン開発への期待感や世界的な景気対策に伴うリスクオンの要素もあるものの、世界各地で連日新規感染者数を更新する等、第二波リスクや米中対立の激化への懸念により、ドル/円は上値が重く、引き続き狭いレンジ推移を予想する。重要指標の発表は21日(火)に日6月全国CPI、22日(水)に日7月製造業/サービス業PMI(速報)、米6月中古住宅販売件数、24日(金)米7月製造業/サービス業PMI(速報)、米6月新築住宅販売件数の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(7/13~7/17)の値動き: 安値 106.67 円 高値 107.42 円 終値 107.03 円



(資料)ブルームバーグ

## 2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.1340 ~ 1.1520 121.50 ~ 123.00 円

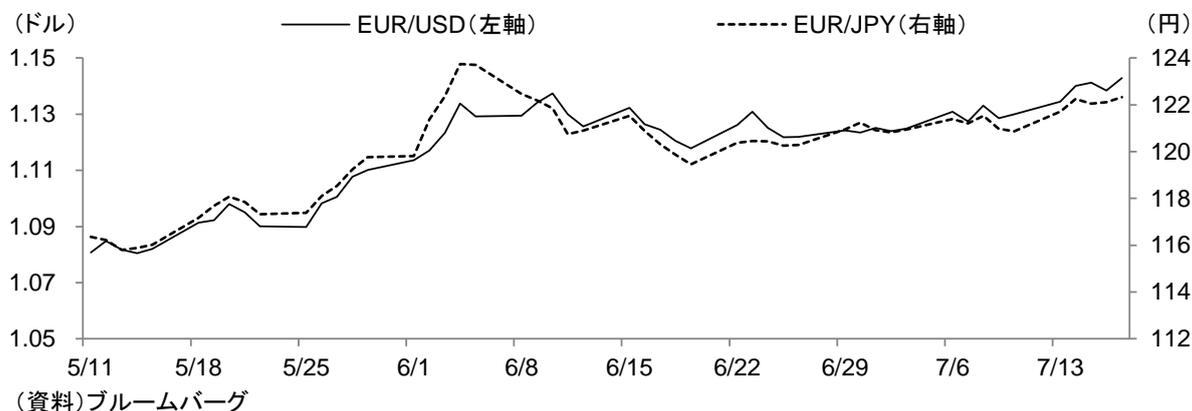
### (2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場はリスク志向でのユーロ買いが進行し、今年の最高値(3/9:1.1495)が意識される水準まで上昇した。週初7/13にユーロ/ドルは週安値圏の1.1310近辺でオープン。欧州株が堅調推移したことで一時1.1370近辺まで上昇するも、その後米カルフォルニア州で新型コロナ感染被害拡大を受けてサービス業の自粛要請が出されたことが嫌気され、逃避的なドル買いにより1.1340近辺まで反落。7/14は週末EU首脳会議で欧州復興基金の合意期待が高まり、一時1.1410近辺まで上昇。7/15は新型コロナのワクチン開発に進展が見られたことでリスクオンのドル売り基調となり、週高値の1.1452まで上昇。ただしその後は翌日のECB政策理事会への警戒感から利益確定のユーロ売りが優勢となり、1.1410近辺まで戻す。7/16はECB理事会前、利食いのユーロ売りが続き1.1380近辺まで続落。ECB政策理事会ではパンデミック緊急購入プログラムの金額は据え置きとなり、ラガルドECB総裁の会見も想定内の内容であることから値動きは限定的であった。その後NYオプションカット後にドル売りが持ち込まれ1.1440近辺まで上昇したが、定着はせず1.1370近辺まで反落。7/17はEU首脳会議でのEU復興基金に対する期待感から再び1.14台を回復。7月米シガン大学消費者信頼感指数が予想に反して低下したことによるドル売りも後押しし、高値圏の1.1430レベルで越週した。対円では、週初7/13に週安値圏の120.90円レベルで開始して121円後半まで上昇。7/14以降は121.50-122.50円の高値圏での推移となり、7/19に週高値の122.56円を付け、122.30円での越週となった。

今週のユーロ相場は堅調推移が継続すると予想。EU首脳会議でEU復興基金に関する議論が難航していることはユーロの上値を抑える要因ではあるが、もともと一部の加盟国から反対意見が出ていたことを考えると、簡単にまとまらないのは想定内の範囲内と言える。一方で、EU復興基金への期待感以外にもドル売りが優勢となっていた要因が2点挙げられる。①米金利が低下していることにより、資金をドルで保有していることの妙味が薄れていること。②米国での新型コロナ感染第二波の拡大や大統領選挙戦を前にした波乱により、今後ドルが安全資産としての価値を損ねる可能性があること。これらの要因からユーロに限らず多くの通貨が対ドルで上昇しており、この傾向は継続すると考えられる。今週は24日(金)にユーロ圏7月PMI速報値の発表を控える。4月以降ユーロ圏のPMIは段階的な改善を見せており、前回は48.5まで回復。今回は好況・不況の境目である50を上回るかに注目が集まる。

### (3) 先週までの相場の推移

先週(7/13~7/17)の値動き: (対ドル) 安値 1.1294 高値 1.1452 終値 1.1428  
(対円) 安値 120.88 高値 122.56 終値 122.27



### 3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.2450 ~ 1.2650 133.50 ~ 135.50 円

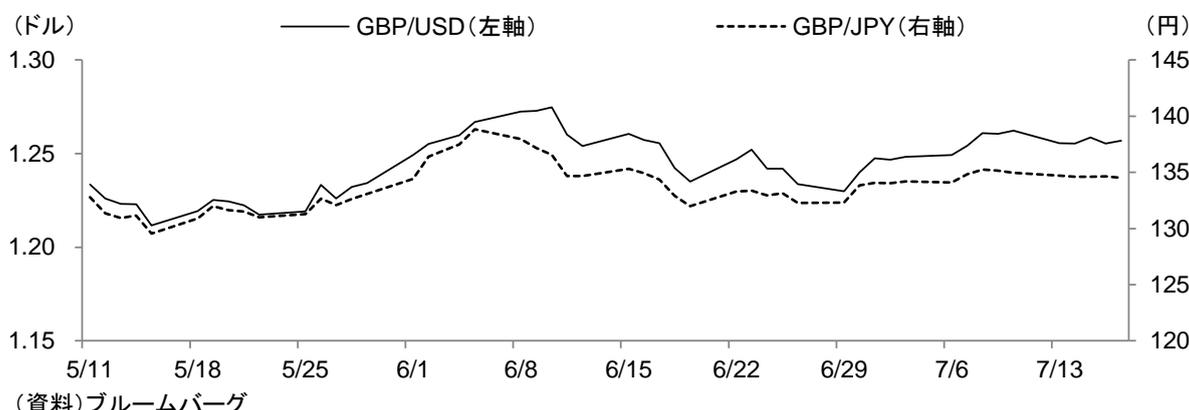
#### (2) ポイント【先週末までの回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドル、対円では、細かい上下動を経て、小幅下押し。対ユーロでは、週初の下押しから、ほとんど反発が見られないまま安値圏に膠着したが、その値動きはユーロ堅調の裏返しと考えられた。ユーロ堅調の背景には、EU次世代基金(コロナ復興基金)に対する期待感の高まりがあったのではないかと見られる。実のところ、同基金については、依然、加盟国間の思惑に大きな開きがあり、17/18日のEUサミットでまとまる可能性は高くはないと見られていた。それでも、「いずれはまとまる」「(まとまるという前提で)景気刺激という面でも、財政統合に向けた第一歩という意味でもユーロにはポジティブ」といった好意的な見方が共有されていたようだ。他に、金融市場全体では、この間、米中が双方共に強硬姿勢を強めたことや、OPEC+の減産規模縮小を巡る思惑などが注目を集めたものの、通貨市場に与えた影響は明確には読み取れなかった。この間発表された英経済指標のうち、14日に発表された英5月貿易収支の大幅改善(後述)には意外感も強かったものの、同時に発表された英5月月次GDPが市場予想を明確に下振れたこともあり、ポンドはむしろ下押しした。他にも、英中銀金融政策委員会のテンレイロ委員が、15日、「マイナス金利の是非は英中銀でも検討されている」という趣旨の発言をしたが、前後してポンドは逆に堅調に推移した。15日のポンド上昇は、英株の上昇を好感した可能性も考えられたが、並行して欧州株全般が上昇しており、そもそも欧州株の上昇も、前日の米株堅調を引き継いだ感があったので、ポンドが買われた理由とするには些か無理があった。或いは、英飲食業、娯楽産業などに対する付加価値税率が、同日から(従来の20%から)5%に引き下げられたことが、英景気回復に対する期待を高め、ポンド上昇を誘った可能性も考えられたかもしれない。

今週の英ポンド相場は、足下膠着の継続を予想。先週のポンド相場は細かい上下動を見せたものの、振り返って見れば狭い値幅に膠着した。主要通貨市場で、多少なりとも方向感が示されたのはユーロの堅調ぐらいだった。上述の通り、金融市場には、米中の関係悪化の他、各国におけるコロナ禍第2波に対する警戒感の高まりなど、決して材料がなかったわけではないものの、通貨市場の反応は極めて鈍かったと言える。これは、過去数週間から数か月に亘って、同じような材料が、時として材料視され、時として看過されといった気まぐれな値動きを繰り返してきた結果の、相場疲れと言えるのではないかと見られる。今の段階でそういった疲れが蓄積しているとしたら、当面はそういった状態が継続し、市場に「動意」が戻ってくるのは夏休み明け以降になるだろう。英経済指標は、21日(火)の英6月財政収支、24日(金)の英6月小売売上高などの発表を控える。6月財政収支は、空前の大赤字(552億ポンド)を計上した5月からの反発(赤字縮小)が見込まれているものの、財政赤字がここまで巨額になると、多少の上振れ/下振れにポンドが反応する可能性も考え難い。英のロックダウンは、6月中に一部緩和されたことから、6月小売売上高が前月比で上昇するのはほぼ確実と見られているが、引き続き前年比では大幅な落ち込みが続くものと見込まれる。上述、5月貿易収支の予想外の大幅改善も、輸入の大幅な落ち込みに負うところが大きかった(昨年末にかけての貿易収支改善は、EU域外への輸出の急増が貢献していたものの)。輸入の落ち込み=消費の落ち込みは、小売売上高の低迷とも平仄が合うが、気掛かりなのは、輸出の落ち込みが、輸入のそれとの比較で、そこまで大きくないこと(故に貿易収支は改善)。そのことは、消費の落ち込み度合いという目線で、英の輸出相手国よりも、英の落ち込みの方が激しいことを意味するからだ。

#### (3) 先週末までの相場の推移

先週(7/13~7/17)の値動き: (対ドル) 安値 1.2480 高値 1.2666 終値 1.2567  
(対円) 安値 133.98 高値 135.49 終値 134.51



## 4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 小野崎 順基

(1) 今週の予想レンジ: 0.6600 ~ 0.7100 73.00 ~ 76.00 円

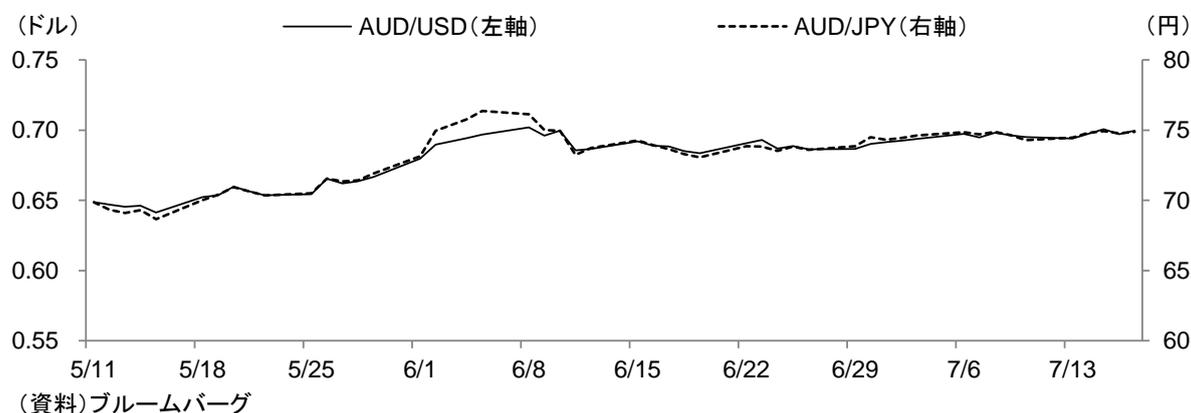
### (2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、13日にはアジア株や米株先物が上昇し、市場がややリスク選好に向かう中、豪ドルは0.69台後半で推移。また、新型コロナウイルスの第二波感染拡大懸念は依然として強いものの、米製薬大手と独バイオ医薬ベンチャーが開発しているワクチンがFDAのファストトラック(優先承認審査制度)の指定を受けたとの報道もあったことから新薬への期待感も背景にNY時間では0.6993まで上昇。引けにかけては今週水曜開催予定のOPEC+会合を前に、石油産出削減漸減への合意懸念から原油価格が下落し、米株にも利益確定の売りが集まると、0.6940近辺まで下落した。豪ドル/円はNY時間に75.00円まで上昇後、引けは74円台半ばで落ち着いた。14日は引き続きタイトレンジでの推移。アジア時間はほぼ0.69台前半で推移。中国の鉄鉱石輸入額が33か月ぶり高値となり、前月比で+16.8%となったものの、豪中関係懸念から豪ドルの上値は重い。NY時間にはNYダウ平均の上昇にリスクオン地合いからドル売りが優勢となり豪ドルは揉み合いながらも0.6975近辺まで上昇した。15日はシドニー早朝に米製薬会社のワクチンで治験者全員に抗体が確認されたとの報道にリスクオンとなりドル売りとともに豪ドルは上昇。パンデミック緊急購入プログラムに関するコメントに注目が集まるECBや週末にEU復興基金の議論を控え、EURには手が出しづらい環境の中、ドル売りに対する通貨として豪ドルに人気が集まった。その結果、1か月以上ぶりの0.70台乗せ、NY時間入り後には0.7038と高値を更新。直近続いていた0.69-0.70のレンジをブレイクした。16日には、豪6月雇用統計が発表された。雇用者数はプラスに転じ、労働参加率も改善したものの、失業率は前月より0.3%悪化の7.4%となった。全般的にはポジティブとも捉えられるが、足元のメルボルン都市封鎖や新規感染拡大ペースの状況もあり、今後の更なる数字の悪化懸念が払しょくできない為、豪ドルの上値は押さえられた。海外時間に入ると0.6970近辺まで下落した後再度0.70台へ乗せるも上値は伸びず0.69台後半での推移となった。17日は狭いレンジでの推移。豪ドル/円は75円手前まで上昇も大台乗せには至らず。

今週の豪ドル相場は上値の重い展開を想定。新型コロナウイルスの感染は主要都市シドニーを擁するニューサウスウェールズ州に広がっている。メルボルンではロックダウンがステージ3からステージ4に引き上げられる可能性もある。ステージ4では薬局やスーパーマーケットを除く全ての営業が停止されるため経済への影響は避けられない。豪中関係についても不安は続く。トランプ米大統領が香港国家安全維持法をめぐる中国制裁法案に署名。英国からはジョンソン首相がファーウェイの完全排除を決定。豪州も中国への厳しい姿勢を取らざるを得ず通商面で密接な豪州にはマイナスであろう。今週は21日(火)にRBA議事要旨公表が控えている。

### (3) 先週までの相場の推移

先週(7/13~7/17)の値動き: (対ドル) 安値 0.6922 高値 0.7038 終値 0.6996  
(対円) 安値 74.19 高値 75.28 終値 74.88



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。